

様式第2号(第7条関係)

会議の開催結果

| | |
|-----------------|--|
| 1 会議の名称 | 令和5年度第2回さいたま市史編さん審議会 |
| 2 会議の開催日時 | 令和6年3月13日(水) 午後3時00分～午後4時30分 |
| 3 会議の開催場所 | さいたま市北区日進町2-1864-10 J S日進3階 304会議室 |
| 4 出席者名 | 老川 慶喜会長、重田 正夫委員、青木 義脩委員、 栗田 尚弥委員、秋元 千代子委員、山崎 憲人委員、 関根 正昌委員、鈴木 英善委員、藤川 奈美子委員 他 事務局職員 |
| 5 欠席者名 | 黒金 英明委員 |
| 6 議題及び公開又は非公開の別 | (議題) (1)次期(第4期)さいたま市史編さん事業計画の策定について (公開又は非公開の別) 公開 |
| 7 非公開の理由 | |
| 8 傍聴者の数 | 0人 |
| 9 審議した内容 | (1)次期(第4期)さいたま市史編さん事業計画の策定について |
| 10 問合せ先 | 総務局総務部アーカイブズセンター 電話番号 048-871-5821 F A X 048-871-5829 |
| 11 その他 | |

さいたま市史編さん審議会委員名簿

(区分順、50音順)

| | 氏名（敬称略） | 所属・職等 | 区分 |
|----|---------|-----------------------|----------|
| 1 | 青木 義脩 | さいたま市遺跡調査会理事 | 学識経験者 |
| 2 | 秋元 千代子 | 元さいたま市立学校長 | 学識経験者 |
| 3 | 老川 慶喜 | 立教大学名誉教授 | 学識経験者 |
| 4 | 栗田 尚弥 | 國學院大学講師 | 学識経験者 |
| 5 | 重田 正夫 | さいたま市文化財保護審議会委員 | 学識経験者 |
| 6 | 山崎 憲人 | 元さいたま市立博物館長 | 学識経験者 |
| 7 | 黒金 英明 | さいたま商工会議所理事・事務局長 | 関係団体代表者 |
| 8 | 関根 正昌 | 株式会社埼玉新聞社代表取締役社長 | 関係団体代表者 |
| 9 | 鈴木 英善 | 市民公募委員 | 市民公募 |
| 10 | 藤川 奈美子 | 埼玉県立文書館公文書・地図センター担当部長 | 関係行政機関職員 |

令和 6 年度の事業計画について

1 事業の目的・内容

本市の歴史の変遷の過程を記録し未来へ継承するため、「さいたま市史」を編さんします。
また、歴史資料を収集し、適切に整理・保存するとともに市民共有の知的資源として活用を図ります。

2 主な事業

(1) さいたま市史編さん審議会の運営

市史編さんに関し必要な事項を調査審議するため、学識経験者等で組織する審議会を運営します。

- ・主な事業：さいたま市史編さん審議会の運営

(2) さいたま市史編さん専門部会の運営

時代や分野別に調査・研究・執筆等を行うため、学識経験者等で組織する専門部会を運営します。

- ・主な事業：さいたま市史編さん専門部会の運営

(3) 歴史資料の収集・保存・活用など

本市に関する古文書や行政文書、写真、刊行物等を収集し、適切に整理・保存します。
また、歴史資料に関する問い合わせや閲覧等の利用申請に対応します。

- ・主な事業：歴史的行政文書の収集・整理・保存
 - ホームページの運営（情報発信と歴史資料の公開）
 - 歴史資料の利用及び問い合わせへの対応
 - 歴史資料のデジタル化（写真、地図、旧役場文書、視聴覚資料等）

(4) 市史等の刊行

市史編さん過程の研究成果をまとめた「さいたま市アーカイブズセンター紀要」を刊行します。

- ・主な事業：「さいたま市史 通史編 原始・古代Ⅱ」の刊行
 - 「さいたま市アーカイブズセンター紀要」の刊行
 - ※中世部会の調査成果について、刊行を予定

次期（第 4 期）さいたま市史編さん事業計画の策定について

1 事業計画の概要

(1) 位置付け

さいたま市史編さん基本方針

└─さいたま市史編さん基本計画（6 年間：令和 3～8 年度）

└─さいたま市史編さん事業計画（3 年間：令和 3～5 年度）

(2) 計画の目的

基本計画で掲げた目的達成のため、具体的な取組内容を明らかにするものです。

(3) 次期事業計画の計画期間

令和 6 年度～令和 8 年度

2 第 3 期事業計画の主な進捗について

(1) 市史編さん事業の推進

- ・市史：民俗編 I、市史通史編原始・古代 I を刊行しました。
- ・紀要：第 6 号、第 7 号を刊行しました。第 8 号は令和 5 年度刊行予定です。
- ・講演会：開催準備を進め、令和 6 年度から実施予定です。

(2) アーカイブズ事業の推進

- ・整理：保管庫の再整理を行っています。
- ・保存：新たに燻蒸を実施しました。保管庫のひとつが解体予定であるため、保管庫の確保を行いました。
- ・活用：諸家文書の所有権整理を実施しています。

(3) 情報発信

- ・HP 充実：アーカイブズセンターギャラリーの写真資料を追加しました。

(4) 推進体制の充実

- ・専門部会：アーカイブズ部会及び調査員補助の設置を行いました。
- ・監修者：設置をしました。

3 次期（第 4 期）事業計画のポイント

- ・現行の基本計画（令和 3 年度～令和 8 年度）の計画期間中であるため、大幅な変更はしないこととします。
- ・新たに追加した主な項目は、「市史等の頒布の拡大」、「歴史資料の既存保存スペースの整理」、「歴史資料の権利関係の整理」などです。なお、実施済の項目（アーカイブズ部会及び監修者の設置等）については、削除します。

第4期さいたま市史編さん事業計画（案）

（令和6年度～令和8年度）

令和6年3月

さいたま市

目 次

| | | | | |
|---|--------------|-------|---|---|
| 1 | 事業計画策定の目的と期間 | | P | 1 |
| 2 | 事業目標 | | P | 1 |
| 3 | 年度別事業概要 | | P | 5 |
| 4 | 事業計画の進行管理 | | P | 5 |

1 事業計画策定の目的と期間

さいたま市史編さん事業計画は、「さいたま市史編さん基本方針（平成25年12月策定、以下、「基本方針」という。）に基づき、中期計画として策定された「第2期さいたま市史編さん基本計画」（令和3年3月策定、以下、「第2期基本計画」という。）に掲げる達成すべき目標の実現に向けて、市史編さん事業の短期計画として事業目標を掲げ、具体的な取り組み内容を明らかにするものです。

第4期の計画期間は、令和6年度から令和8年度までの3年間とし、以降における事業目標及び取り組み内容については、次期計画（第3期基本計画及び第5期事業計画）の策定において明らかにしてまいります。

2 事業目標

第2期基本計画に基づき、本計画期間（令和6年度から令和8年度）に取り組むべき事項として、次の事業目標を掲げます。

基本計画 目標1 「さいたま市への関心と愛着」を育む市史編さん事業の推進

（1）市史等の刊行

さいたま市を一つの地域とした視点と学術的成果を踏まえ、地域の歴史や特性を明らかにし、市民の目線に立った分かりやすく読みやすい市史を刊行します。

- 通史編 原始・古代Ⅱ及びⅢの刊行
- 別編 民俗編Ⅱの刊行
- 市史資料等の刊行
- アーカイブズセンター紀要の刊行
- 博物館等の関係機関との連携協力

（2）市史等の頒布の拡大

地域の歴史的発展過程を共有し、さいたま市民としてのアイデンティティを醸成するため、より多くの市民に手に取って読んでいただけるよう、市史等の頒布冊数を増やします。

- 市史等の頒布先の拡大
- 大学等研究機関等への頒布

(3) 講演会等の開催

さいたま市の歴史的発展過程及び歴史的長等を明らかにすることで「さいたま市への関心と愛着」を醸成するとともに、市史刊行のPRをするため、講演会等を開催します。

- 講演会等の開催

(4) レファレンスの迅速化

市民等からの問い合わせについては、地域の歴史から歴史資料そのものへの問い合わせなど幅広い。こうした問い合わせについて調査・回答した結果を検索できるようにすることで、より早く適切な対応を可能とします。

- 問い合わせ及び回答内容の検索性の向上
- 博物館等との連携協力

基本計画 目標2 歴史資料の次世代への継承と活用(公文書館機能の整備)

(1) 歴史資料(歴史行政文書を除く)の収集・整理・保存・活用

後世に貴重な歴史資料を継承するため、収集・整理・保存を行うとともに、市史刊行事業等に活用します。

- 歴史資料の収集・整理・保存の推進
- 必要に応じて民間団体、企業等が発行する記念誌、広報誌、雑誌等の歴史的価値ある刊行物を収集・整理・保存し、市史刊行事業や市民等への閲覧・公開のために活用

(2) 歴史行政文書の収集基準と整理・保存・活用方法の確立

保存期間が満了した行政文書(公文書)の中から歴史的・文化的価値を有するもの(以下、「歴史行政文書」という。)を収集・整理・保存していますが、市史刊行事業や市民等への閲覧・公開のため収集基準や整理・保存・活用方法を確立します。

- 歴史行政文書の収集基準の見直し、改定
- 収集された歴史行政文書の整理・保存・活用方法の確立

(3) 公文書館機能の整備に向けた歴史資料の整理・保存・活用方法の構築

歴史資料は諸家文書、歴史行政文書、行政資料(市等の刊行物)、新聞資料(新聞記事)、電磁的記録、マイクロフィルム、写真ネガ・紙焼き等様々な媒体とその発行主体や所有形態並びに史料自体の形態等が異なります。その

ため、公文書館機能の整備に向けた市民等への閲覧・公開を前提として適切な整理・保存方法の構築を目指します。

- 諸家文書の活用に向けた整理・保存方法の構築
- 行政資料の整理・活用方法の構築
- マイクロフィルムのデジタル化の推進
- 写真資料の整理・保存方法の構築

(4) 歴史資料の整理・保存スペースの確保

歴史資料の史料的价值（稀少性）、材質、形態、分量などに応じた適切な保存方法について検討し、必要に応じて新たな保存設備の確保に努めてまいります。

- 既存の保存スペースの整理（検索性の向上及び目録との突合等）
- 民間文書保管庫(施設)の活用
- 市有施設での適切な管理・保存方法についての検討

(5) 歴史資料のデジタル化

特に歴史的価値が高い歴史資料から優先的にデジタル化を進め、市史編さん事業や市民等への情報提供に活用します。

- デジタル化する歴史資料の選定と優先順位付け
- 旧市史刊行物のデジタル化の推進
- 市史通史編への活用

(6) 市民等への情報提供に向けた諸権利の整理と公開・閲覧体制の構築

公開・閲覧開始の準備段階として、体制の在り方を検討します。

- 公開・閲覧体制の検討
- 歴史資料に係る著作権、所有権、肖像権等の課題整理

基本計画 目標3 情報技術の活用による情報発信

(1) アーカイブズセンターギャラリーの充実

アーカイブズセンターが所有する写真等をデジタル化し、ホームページ上で引き続き公開するとともに、コンテンツを増やします。

- 写真等の所有権等の課題整理
- コンテンツの充実

(2) 歴史資料のデジタルアーカイブの構築

市民等に対して歴史資料を何時でもどこにいても簡単に閲覧できるようにデジタル化による情報提供のための整備を行います。

- 歴史資料の公開に向けての課題整理

(3) 情報技術の活用方法の構築

情報技術の進展は著しいため、市民等への最適な情報提供方法について検討してまいります。

- 情報技術による歴史資料の活用方法の検討

基本計画 目標4 推進体制の充実

(1) 専門部会の体制の充実

市史通史編の刊行が本格化する中で、専門部会の調査・分析・執筆にかかわる事業量が多くなっています。また、並行して歴史資料を次世代に継承することも求められています。そのため、必要に応じて専門委員・調査員等を補充し、組織体制の充実を図ります。

- 専門部会の人員体制の拡充

(2) 編集・校正体制の強化

市民等に分かりやすく親しみやすい市史となるよう編集・校正作業を正確に行うための体制を整備します。

- 事務局内の校正体制の強化
- 専門部会の編集・校閲体制の充実

3 年度別事業概要

| | |
|-------|---|
| 令和6年度 | <ul style="list-style-type: none">・通史編 原始・古代Ⅱ（弥生・古墳）の刊行・アーカイブズセンター紀要第9号の刊行・歴史資料の収集・整理・保存・活用・歴史行政文書の収集基準と整理・保存・活用方法の確立・歴史資料のデジタル化の推進 |
| 令和7年度 | <ul style="list-style-type: none">・別編 民俗編Ⅱ（年中行事・祭り・民俗芸能等）の刊行・アーカイブズセンター紀要第10号の刊行・歴史資料の収集・整理・保存・活用・歴史行政文書の収集基準と整理・保存・活用方法の確立・歴史資料のデジタル化の推進 |
| 令和8年度 | <ul style="list-style-type: none">・通史編 原始・古代Ⅲ（奈良・平安）の刊行・アーカイブズセンター紀要第11号の刊行・歴史資料の収集・整理・保存・活用・歴史行政文書の収集基準と整理・保存・活用方法の確立・歴史資料のデジタル化の推進 |

4 事業計画の進行管理

事業計画の策定にあたっては市史編さん審議会の承認を得るとともに、専門部会、連絡調整会議において達成目標の進捗状況を定期的に把握し、検証します。また、次期事業計画の策定に関しては、市史編さん状況や社会経済情勢の変化に対応した見直しを行うものとし、年次別刊行計画についても必要に応じた見直しを図り、市史編さん事業が円滑に推進できるよう進行管理を行います。